

『イナバとナバホの白兔』に続く、仏国立ケ・ブランリー美術館×SPAC 共同制作

『ギルガメシュ叙事詩』

3月フランスでの世界初演を経て、5月静岡市・駿府城公園で上演！
人形劇師・沢則行氏を迎え、世界最古の壮大な物語を俳優の身体・台詞・生演奏・人形で立ち上げる。

プレス関係各位

平素より、SPAC・静岡県舞台芸術センターに格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

SPAC では、フランス国立ケ・ブランリー美術館との共同制作にして芸術総監督・宮城聰演出の新作『ギルガメシュ叙事詩』のクリエイションが、年明け1月より本格的にスタートしました。本作は、ゴールデンウィークに開催されるSPAC主催の国際演劇祭「ふじのくにせいかい演劇祭2022」「ふじのくに野外芸術フェスタ2022」において、静岡市・駿府城公園にて上演されます。

古代オリエント文明の象徴かつ現存する世界最古の文学作品『ギルガメシュ叙事詩』は、紀元前2600年頃に実在したとされるメソポタミア南部の都市国家ウルクの王ギルガメシュを主人公に、壮大なスケールで描かれた英雄冒険譚です。レバノン杉の森を徹底的に伐採して美しい都市を築き、友・エンキドゥを失ったことで、死への恐怖や人生の意味と格闘し、そして永遠の生命を求める旅へ——。そんなギルガメシュの姿は、数千年の時を経てなお現代に響く普遍性を持ちます。

本作において宮城は、チェコを拠点に世界的な活動を展開し、東京2020 NIPPON フェスティバル主催プログラム「しあわせはこぼ旅 モッコが復興を歩む東北から TOKYO へ」で人形デザイン・製作操演・総指揮を務めた人形劇師・沢則行氏と初めてタッグを組むことで、空間をダイナミックに変化させ、視覚的な面白さも加えます。舞台全面を覆いつくす巨大な操り人形「フンババ」（レバノン杉を守護する怪物）の圧倒的な迫力と造形美は、本作の大きな見どころです。また、この叙事詩がもともと「文字」ではなく「口承文芸」であった点を重視して台本を作り、俳優によるコロスと生演奏で、叙事詩本来の音楽性を立体的に立ち上げます。

なお本作は、2021年3月にフランス国立ケ・ブランリー美術館での上演を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い延期となり、2022年3月に世界初演を迎えます。

3年間に及ぶ構想を経て、宮城聰×SPACが満を持して世界に放つ待望の新作にどうぞご期待ください。

フランス国立ケ・ブランリー美術館委嘱作品／SPAC 新作

ギルガメシュ叙事詩

台本・演出：宮城聰 / 翻訳：月本昭男（ぶねうま舎刊『ラピス・ラズリ版 ギルガメシュ王の物語』）

音楽：棚川寛子 / 人形デザイン：沢則行

出演（日本公演）：阿部一徳、大高浩一、石井萌水、大内米治、片岡佐知子、榊原有美、桜内結う、佐藤ゆず、鈴木陽代
関根淳子、大道無門優也、館野百代、本多麻紀、森山冬子、山本実幸、吉植荘一郎、吉見亮、渡辺敬彦
沢則行（操演）、桑原博之（操演）

出演（フランス公演）：阿部一徳、大高浩一、石井萌水、大内米治、片岡佐知子、貴島豪、榊原有美、桜内結う、佐藤ゆず
鈴木陽代関根淳子、大道無門優也、館野百代、本多麻紀、森山冬子、山本実幸、吉植荘一郎、吉見亮
沢則行（操演）、桑原博之（操演）

美術デザイン：深沢襟 / 照明デザイン：吉本有輝子 / 衣裳デザイン：駒井友美子 / ヘアメイク：梶田キョウコ

静岡公演【ふじのくに野外芸術フェスタ2022静岡】

■公演日：5月2日（月）、3日（火・祝）、4日（水・祝）、5日（木・祝） <全4公演> 各日18:40開演

■会場：駿府城公園 紅葉山庭園前広場 特設会場

主催：ふじのくに野外芸術フェスタ実行委員会 / 製作：SPAC・静岡県舞台芸術センター

フランス公演 ★決定

■公演日：[公開ゲネ]3月23日（水）20:00

[公演]3月24日（木）20:00、25日（金）20:00、26日（土）18:00、27日（日）14:30・17:00 <全5公演>

■会場：フランス国立ケ・ブランリー美術館 クロード・レヴィ＝ストロース劇場 <https://www.quaibrantly.fr/fr/>（仏語）

主催：フランス国立ケ・ブランリー美術館 / 製作：フランス国立ケ・ブランリー美術館、SPAC・静岡県舞台芸術センター

助成：文化庁 文化芸術振興費補助金（国際芸術交流支援事業） | 独立行政法人日本芸術文化振興会



プロフィール



©加藤孝

台本・演出：宮城 聰(みやぎ・さとし)

1959年東京生まれ。東京大学で演劇論を学び、90年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007年4月SPAC芸術総監督に就任。14年アヴィニョン演劇祭から招聘された『マハーバーラタ』の成功を受け、17年『アンティゴネ』を同演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演。アジアの演劇がオープニングに選ばれたのは同演劇祭史上初めてのことであり、その作品世界は大きな反響を呼んだ。平成29年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。19年4月フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章。



©Youhei Kubota

人形美術デザイン・操演：沢 則行(さわ・のりゆき)

北海道小樽市出身。1991年にフランス、1992年に文化庁在外研修派遣でチェコへ。以後、プラハを拠点に世界20ヶ国以上で公演、また、チェコ国立芸術アカデミー演劇・人形劇学部を始め、多くの教育現場で講座、ワークショップを行う。ヨーロッパ文化賞「フランツ・カフカ・メダル」授与、EU 文化都市賞など、国際的受賞多数。日本国内では、NHK「みんなのうた」映像制作、「SWITCHインタビュー 達人達」出演、東京オリパラ大会の公式文化プログラム「東京2020NIPPONフェスティバル～巨大人形プロジェクト『モッコ』」の人形デザイン設計および人形製作操演総指揮を担う。極小から巨大まで、あらゆる人形(=フィギュア)を創造し操演するところから、フィギュアアートシアターの第一人者とされる。

フランス国立ケ・ブランリー美術館

ルーブル、オルセー、ポンピドゥーとともにパリの四大美術館のひとつに数えられるケ・ブランリー美術館は、当時の大統領、故ジャック・シラク氏が「諸文化の対話する場所」として構想し、非ヨーロッパ圏の文明や文化の多様性に焦点を当てる美術館として2006年に開館した。25,000㎡の広大な敷地に、およそ35万点の作品が収蔵されている。館内に、人類学者クロード・レヴィ=ストロースの名を冠した劇場を有し、同劇場のこけら落とし公演として、宮城聰の代表作『マハーバーラタ ～ナラ王の冒険～』が上演された。

宮城聰とフランス国立ケ・ブランリー美術館の歩み

2006年：同館内クロード・レヴィ=ストロース劇場のこけら落とし公演として『マハーバーラタ ～ナラ王の冒険～』を上演。

2013年：SPACフランス公演ツアーの一環として、同劇場で『マハーバーラタ ～ナラ王の冒険～』を上演。

(他、ル・アーヴル、ルヴァロワ=ペレ、カーンの3都市を巡演し、全9公演を実施)

2016年：フランス国立ケ・ブランリー美術館開館10周年記念委嘱作品『イナバとナバホの白兔』を演出、5月の静岡市・駿府城公園でのプレ公演を経て、6月世界初演。

2019年：6月、静岡公演を経て、『イナバとナバホの白兔』を同劇場で再演。



『イナバとナバホの白兔』(2019年)より 左：©Y.Inokuma 右：©NAKAO Eiji